

第1回「共同体を生きる」ワークショップ ニュースレター 『もし、あなたが主任司祭なら』

ミッション2030が正式にスタートしてから3年目となる今年度は「共同体を生きる」を冠に掲げたワークショップを隔月で開催して参ります。

1 英主任司祭のお話

冒頭、英主任司祭より、年度テーマの「共同体を生きる」および今回のワークショップのテーマ「もし、あなたが主任司祭なら」についてのお話がありました。

イグナチオ教会に在籍する信徒は1万6千人。主任司祭一人で導くのは不可能で、信徒同士が助け合う必要がある。

毎年200〜300名が受洗するが、洗礼に導くばかりでなく、共同体に招き入れる必要がある。昨年行ったアンケート調査によれば、新受洗者は受洗後3年以内に教会からいなくなる、教会メンバーとして定着していない。既存の活動グループや講座で吸収できないとすれば、活動グループを増やして新受洗者の居場所を作る必要があるのかも知れない。

共同体の反対語は、孤独と対立。これらは現代社会の課題である。独居老人、

教会に来られない人、1週間誰とも話さない人、食事を一人でする人に教会は何ができるであろうか。教会では家族の団らんを求める子ども達との食事会、ステラ・キッズ・カフェを始めたが、子どもだけの問題ではなく老人食堂も必要かも知れない。主の食卓を囲むのがキリスト教の本質である。子育て中のお母さんの食事会、独身者限定の飲み会」なども考えられる。高齢化で教会に来られない人への戸別訪問、居場所のない男性のためのメンズクラブ等も必要かも知れない。

事前に届いた信徒からのメールには、洗礼までの準備期間を短く、「神父様との呼び方はやめて、あだ名で呼んでは」等のアイデアが記されていた。

2 グループでの対話

発表

出席者・事務局が4人1組で23グループに分かれ、自分が主任司祭なら、何をしたい、どんな教会にするか等について、実現可能性の制約を考慮しない前提で話し合い、全グループが発表を行いました。

そもそも自分が主任司祭になるとの仮定がしづらいとの声も挙がり、発表内容が主任司祭への依頼事項になってしまいうグループも複数ありました。

以下各グループより発表されたアイデアを項目別に分けてご紹介いたします。

- ① 理念
アットホームな教会、祈りを大切に作る教会、開かれた扉、自由に気軽に集まれる、初代教会に学ぶ
- ② 施設
信徒会館の高層化、広いホール、宿泊施設、駐車場、共同納骨堂
- ③ 活動、グループ
食事会、県人会、地域毎のグループ作り、趣味・

嗜好の合う人同士のグループ、スポーツ大会、フオークダンス、教会に来られない方を戸別訪問

④ 新受洗者

代父母との関係充実、受洗の同期会、活動グループの見える化

⑤ 世代間交流

ステラ・キッズ・カフェ 家族の団らんを求める子ども達との食事会への高齢者参加、教会内乳児院

⑥ 他教会、他宗派との交流

小教区との連携、プロテスタントとの交流

⑦ 司祭

小さくても奇跡を起こせる、ミサ後退堂時に信徒を見送る、司祭を増やす

⑧ その他

笑顔で互いに挨拶する、ミサの説教・お知らせを聴きやすくする

3 英主任司祭の講評

活動場所については、岐部ホール、上智大学の教室 同大学との間の覚書に基づくも利用可能。

地区会創設は、横浜教区や埼玉教区に対抗してイグナチオ教会を作るようなことで、反発を招きかねない。ステラ・キッズ・カフェに高齢者が参加しても、子どもとの間で話を通じない恐れがある。

壁新聞のようなものを作って、同好の士を募るのは面白いかも知れない。

大きな教会では小共同体とネットワーク作りが重要。使徒言行録第2章に、初代教会は「使徒の教え」相互の交わり「パンを割く」祈る」の4つに熱心だったとの記述があることを紹介する。

※次回のお知らせ

7月7日(日)午後1〜3時、ヨセフホール。テーマは「祈りにもつづく使徒的共同体とは」
～あなたはどのようにながが家共同体をつくりませんか？～
詳細は、チラシ、ポスター、教会報マシスをご参照下さい。

ミッション2030 共同体を生きるグループ